

「それが」とテキストの構造

——接続詞と指示詞の関係に関する一考察——

庵 功 雄

キーワード: 「それが」, 結束性, 予測裏切り, テキストの意味の付与, 指示性
(referentiality)

日本語のテキストの構造を考える上で重要な役割を果たすのが、接続詞と指示詞である。本稿では、これまで明示的な記述がなかった両者の関係を、主に「それが」という形式に注目して論じた。具体的には、まず、「それが」を、それを含む文において、先行文脈から予測される内容を裏切る内容が述べられるということ为先触れする機能を持つ接続詞と規定し、そうした性質が現れる理由を次のように説明した。即ち、「それが」は「その」の使用が義務的な「そのNPが」と密接な関係があり、それによって、「そのNPが」と同様にテキストの意味を付与され、義務的なテキストの意味の付与の帰結として予測裏切り性を持つ、というものである。さらに、考察の一環として「それが」と同様の予測裏切り性を持つ接続詞として「それを」を認めた。そして、「それ+助詞」の形の接続詞の中で「それが」「それを」だけが予測裏切り性を表せるのは、「が」「を」が具体的な意味を持たない文法格であるためである、とした。